

1. 日本側参加研究者の体制

①採択年度 (和暦) 平成31 (西暦) 2019	年度	②採択期間 (通常A型は5年以 内、B型は3年以 内)	5	年間 (1年未満は 切上げ)	③事業の型 (AまたはBを記入)	A型 型
④日本側拠点機関名 (和文)	京都大学ウイルス・再生医科学研究所					
⑤研究交流課題名 (和文)	時空間ウイルス学の国際拠点形成					
⑥課題番号	JPJSCCA20190008					
⑦コーディネーター所属部局名・ 職名・氏名 (和文)	ウイルス・再生医科学研究所・教授・野田岳志					
⑧日本側協力機関名 (和文) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)						
京都大学大学院医学研究科						
京都大学大学院生命科学研究科						
東京大学						

⑨参加研究者数内訳 (様式12 参加研究者リスト に準じてください。重複カ ウントしないこと。)	教授級 以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	参加資格の ない者 (⑩に内訳をご記入くださ い。手引き2-4参照。)	合計	第三国所属の研究者 (内数) (⑪に内訳をご記入くださ い。)
拠点機関	3	3	5	9	0	20	0
協力機関・協力研究者	1	8	4	13	0	26	0
合計	4	11	9	22	0	46	0

⑩手引2-4記載の参加資格のない者の内訳 (適宜、行を加除。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)		
所属・職	専門分野	研究交流での役割
該当なし		

⑪「第三国所属の研究者」内訳 (平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)			
所属機関所在国・ 所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	日本側参加者として一体的な協力体制を 確保する方法
該当なし			

2. 経費

事業の型 A 型			
①当該年度の本事業による経費の支出			
経費内訳	金額 (単位:円)	備考	
研究交流経費	国内旅費※1	1,382,350	外国旅費：新型コロナウイルス感染症の拡大により支出なし。
	外国旅費※1	0	
	謝金	0	
	備品・消耗品購入費	9,062,148	当初の予定より研究が進行したため消耗品の購入費が増大した。
	その他経費	2,029,213	セミナー開催、招へい旅費等
	不課税取引・非課税取引に係る消費税※2	126,289	
	計	12,600,000	
業務委託手数料	1,260,000	研究交流経費の10%（1円未満切捨）。消費税額は内額とする。	
合計	13,860,000		

※1「国内旅費」「外国旅費」の合計が、研究交流経費支出額の50%を超えていない場合、備考欄にエラーが出ます。

※2 受託機関における課税、非課税（免税）の区分に応じ対象額を算定のこと。受託機関で負担の場合はその旨、備考欄に記載すること。

②研究交流経費（総額）の30%に相当する額を超える各経費費目の増減があった場合の説明事由（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）				
③ 日本側の参加研究者による旅費	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本である者の旅費の総額（単位：千円）		1,382	
	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本以外である者の旅費の総額（単位：千円）	日本→日本以外の渡航		
		日本以外→日本の渡航		
④（相手国側参加研究者による旅費の総額）	日本または相手国→日本の渡航	（単位：千円）のうち、 参加研究者の所属の相手国側	日本または相手国→日本の渡航	
	日本又は相手国→相手国の渡航		日本又は相手国→相手国の渡航	
	日本または相手国→第三国の渡航		日本または相手国→第三国の渡航	
	第三国→日本の渡航		第三国→日本の渡航	
	第三国→相手国の渡航		第三国→相手国の渡航	
	第三国→第三国の渡航		第三国→第三国の渡航	

※旅費は、往復の金額で記載すること（例：第三国から日本に渡航の場合、第三国→日本→第三国の往復の渡航費を「第三国→日本の渡航」の欄に記載）。

経由国がある場合は、日本側拠点機関の規定等に基づき、旅費の分類・切り分けを行い、記入すること。

⑤（B型で平成31年度以前の採択課題のみ）中国・韓国・シンガポール・台湾側参加者の外国旅費がある場合（交流経費の5%以内。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）		
総額（単位：千円）	手引2-6記載の要件を満たす旨の事由説明	
⑥相手国マッチングファンド(=相手国側拠点機関が本研究課題に使用した研究交流経費) (単位：千円、千円未満切捨て)		
全相手国のマッチングファンド総額 (1年間の金額)	マッチングファンドのある相手国拠点機関数	相手国拠点機関のマッチングファンド平均額 (1年間の金額)
0	4	0

3. 共同研究・セミナー

事業の型 A 型							
①共同研究 (適宜、行を加除すること。)				現在の年度に○を付けること→			
共同研究 整理番号	共同研究課題名 (和文)	相手国	1年目	2年目	3年目	A型のみ	
			実施年度に ○を付ける ↓	実施年度に ○を付ける ↓	実施年度に ○を付ける ↓	4年目 実施年度に○を 付ける↓	5年目 実施年度に○を 付ける↓
R 1	エボラウイルスのヌクレオカプシドの構造解析に関する共同研究	ドイツ	○	○	○	○	○
R 2	エイズウイルス感染症治療に関する共同研究	アメリカ	○	○	○	○	○
R 3	ボルナ病ウイルス2型(BoDV-2)の複製機構に関する共同研究	ドイツ	○	○	○	○	○
R 4	進化的に保存された自然免疫機構解析に関する共同研究	フランス	○	○	○	○	○
R 5	ヒトT細胞白血病ウイルスの感染維持機構およびウイルス因子によるがん化機構の分子基盤の解明	アメリカ	○	○	○	○	○
R 6	ウイルスと宿主の共進化メカニズムに関する共同研究	イギリス	○	○	○	○	○
R 7	インフルエンザウイルスの増殖機構および制御機構に関する共同研究	アメリカ	○	○	○	○	○
R 8	アレナウイルスの増殖機構および制御機構に関する共同研究	ドイツ	○	○	○	○	○
共同研究の実施状況 (当該年度実施の共同研究について、共同研究整理番号毎に、特筆すべき成果、相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果、研究協力体制の構築状況等について記載すること。また、手引5-3変更事例No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。)							
R 1	Phillips University Marburgとはエボラウイルスおよびマールブルクウイルスの増殖機構に関する共同研究の成果を基盤として、エボラウイルスおよびマールブルクウイルスの構造解析を精力的に進めている。今年度はエボラウイルスおよびマールブルクウイルス核タンパク質変異体を作製し、核タンパク質-RNA複合体の微細構造を解析した。						
R 2	University of California Los Angelesとの共同研究として、昨年に引き続きHIV感染ヒト化マウスを用いた創薬研究と高度バイオインフォマティクス解析を行った。						
R 3	共同研究先が持つBoDV-2株のポリメラーゼ活性について、BoDV-1株と比較することで詳細な複製機構の解明を行っている。						
R 4	昨年に引き続き、ショウジョウバエで同定された新規自然免疫制御分子の情報を共有し遺伝子欠損マウスの作製、マクロファージにおける感染防御応答における役割の解析を行った。今後も、Strasburg University (フランス) と共同研究を進める予定である。						
R 5	The Ohio State University (米国) と共同研究を進めている。昨年に続いて、ヒトT細胞白血病ウイルス1型および2型の病原性比較解析、各ウイルス遺伝子の機能解析を行った。						
R 6	University of Glasgowと内在性レトロウイルスの進化に関する共同研究を実施している。レトロウイルスの複製を制御するAID/APOBECファミリー分子に着目し、ほ乳類の進化と内在性レトロウイルス (ERV) の重複、および、AID/APOBECファミリーの機能の相互関連について、バイオインフォマティクスに基づいた解析を実施し、研究成果を論文化した (Ito et al, PNAS, 2020)。また、本年度は、新型コロナウイルスに関する学際融合研究も実施し、ウイルス遺伝子の進化と機能解析を実施し、その成果を論文化した (Konno et al, Cell Rep, 2020)。						
R 7	University of Wisconsin Madisonとインフルエンザウイルスに関する共同研究を実施している。						
R 8	Phillips University Marburg (ドイツ) およびFriedrich-Loeffler Institute (ドイツ) と共同研究を進行中であり、今後も引き続き種々の病原性アレナウイルスに関する共同研究を推進する予定である。今年度はアレナウイルスの一種であるLCMV由来のリボヌクレオタンパク質複合体の微細構造解析を行った。						

②セミナー (当該年度開催分について、記載。適宜、行を加除すること。)				
セミナー 整理番号	セミナー名 (和文)	セミナー名 (英文)	開催地 (国名・都市名・会場名)	開催期間 (○年○月○日～○年○月○日 (○日間))
S 1	日本学術振興会研究拠点形成事業 第17回ウイルス学 キャンプ	JSPS Core-to-Core Program "17th Virology Camp"	中止	
S 2	日本学術振興会研究拠点形成事業 次世代へ向けた日 英構造生命科学シンポジウム	JSPS Core-to-Core Program "Japan-UK Structural Life Science Symposium to the next generation"	中止	
S 3	日本学術振興会研究拠点形成事業 ウイルス研究の潮 流シリーズI	JSPS Core-to-Core Program "Virus Research Seminar Series I"	中止	
S 4	日本学術振興会研究拠点形成事業 ウイルス研究の潮 流シリーズII	JSPS Core-to-Core Program "Virus Research Seminar Series II"	中止	
S 5	日本学術振興会研究拠点形成事業 ウイルス研究の潮 流シリーズIII	JSPS Core-to-Core Program "Virus Research Seminar Series III"	中止	
S 6	日本学術振興会研究拠点形成事業 ウイルス研究の潮 流シリーズIV	JSPS Core-to-Core Program "Virus Research Seminar Series IV"	中止	
S 7	日本学術振興会研究拠点形成事業 ウイルス研究の潮 流シリーズV	JSPS Core-to-Core Program "Virus Research Seminar Series V"	中止	
S 8	日本学術振興会研究拠点形成事業 ウイルス研究の潮 流シリーズVI	JSPS Core-to-Core Program "Virus Research Seminar Series VI"	中止	
S 9	JSPS Core-to-Core Program Virtual Mini Symposium on HTLV-1 leukemogenesis	JSPS Core-to-Core Program Virtual Mini Symposium on HTLV-1 leukemogenesis	Web開催 (日本、英国)	2021年3月12日 (1日間)

セミナーの開催状況（当該年度開催のセミナーについて、セミナー整理番号毎に、参加者数（総数、参加国名ごとの参加人数（本事業経費による負担の有無を問わない）、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況、相手国とのネットワーク形成、若手の育成等の効果等について記載すること。また、手引5-3「軽微な変更の事例」の変更事項No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）	
S 1	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止
S 2	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止
S 3	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止
S 4	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止
S 5	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止
S 6	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止
S 7	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止
S 8	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止
S 9	京都大学ウイルス・再生医科学研究所を拠点とする課題「時空間ウイルス学の国際拠点形成」および熊本大学国際先端医学研究機構を拠点とする課題「ストレス造血と白血球病態解析のための基礎・臨床研究共同体の構築」の共同企画として、英国Imperial College Londonの研究者とZoomを用いてミニシンポジウムを開催した。国内外から80名（日本60名、英国20名）を超える研究者が参加しHTLV-1による発がん機構に関して発表および議論が行われた。また京都大学-熊本大学間の交流にも繋がった。本セミナーに関しては当初の計画には無かったが、若手ウイルス研究者にHTLV-1による発がん機構に関する知識を深めさせることを目的として追加で実施したものである。
③当該年度に第三国でのセミナー開催があった場合の、本事業の位置づけ、第三国で開催する経済的かつ合理的な理由、そして相手国側拠点との開催経費の分担状況（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引2-7参照のこと。）	
該当なし	
④当該年度に開催のセミナーで、参加研究者以外の者に本事業経費を使って基調講演を依頼した場合の、日本側拠点機関にとってのメリット（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引3-4（1）①参照のこと。）	
該当なし	

4. 研究交流状況

事業の型 A 型							
①日本→海外の渡航数(本事業経費による渡航)(適宜、行を加除すること。)							
国名(派遣先) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3)
1 該当なし						0	
計	0	0	0	0	0	0	
第三国への渡航がある場合は、各渡航について、手引3-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明(適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
該当なし							

②海外→日本の渡航数(本事業経費による渡航)(適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
国名(派遣元) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3)
1 該当なし						0	
計	0	0	0	0	0	0	
第三国からの渡航がある場合は、各渡航について、手引3-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明(適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
該当なし							

③日本以外→日本以外の渡航数(本事業経費による渡航)(①、②の合計数の半数以下とすること。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
国名(派遣元)	国名(派遣先)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3)
1 該当なし							0	
計		0	0	0	0	0	0	
各渡航について、手引3-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明(適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
該当なし								

④海外→日本の渡航数(相手国経費による渡航)(適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)						
国名(派遣元)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計
1 該当なし						0
計	0	0	0	0	0	0

⑤日本→海外の渡航数(相手国経費による渡航)(適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)						
国名(派遣先)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計
1 該当なし						0
計	0	0	0	0	0	0

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	ドイツ
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: フライブルク大学 英文: University of Freiburg	
③コーディネーター所属部署局名・職名・氏名(英文)	Institute for Medical Microbiology and Hygiene, Professor, Martin Schwemmler
④協力機関名(和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: フィリップ大学マールブルク 英文: Philipps University Marburg	
和文: フリードリヒ・レフラー研究所 英文: Friedrich-Loeffler Institute	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	1	0	1	0	0	2	
協力機関・協力研究者	7	0	0	0	0	7	
合計	8	0	1	0	0	9	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。)(平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)					
負担した: ○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -		※参考: 日本側研究交流経費 12,600					
A型のみ: パターン種別 パターン1か2を記入すること		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例: 2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)
	1	Government	DFG		2019.3.13	EUR	126
(1)日本側研究者の相手国内滞在費							
(2)相手国側研究者の国際航空運賃							
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費							
(4)相手国側研究者の相手国内旅費							
(5)相手国側研究者の研究経費							
(6)相手国開催のセミナー開催経費							
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)		合計		0			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	アメリカ
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: カリフォルニア大学ロサンゼルス校 英文: University of California Los Angeles	
③コーディネーター所属局名・職名・氏名(英文)	AIDS Institute, Professor, Jerome Zack
④協力機関名(和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: オハイオ州立大学 英文: Ohio State University	
和文: ウィスコンシン大学マディソン校 英文: University of Wisconsin Madison	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	2	0	0	0	0	2	
協力機関・協力研究者	5	2	1	0	0	8	
合計	7	2	1	0	0	10	
⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)							
所属・職名(専門分野)			研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)				
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。)(平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット		研究交流に不可欠な理由		
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)			※参考: 日本側研究交流経費 12,600			
A型のみ: パターン種別 パターン1か2を記入すること		1	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例: 2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)
			NIH/NICHD	R01		2019.3.13	USD	111
(1)日本側研究者の相手国内滞在費								
(2)相手国側研究者の国際航空運賃								
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費								
(4)相手国側研究者の相手国内旅費								
(5)相手国側研究者の研究経費								
(6)相手国開催のセミナー開催経費								
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)			合計		0			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	フランス
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文: ストラスブール大学 英文: University of Strasbourg	
③コーディネーター所属 部署局名・職名・氏名 (英文)	Institute of Molecular and Cellular Biology, Professor, Jean-Luc Imler
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級 以上	助教・准教授等	ポスドク等若手 研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	3	2	0	0	0	5	
協力機関・協力研究者	2	0	1	0	0	3	
合計	5	2	1	0	0	8	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)

所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。)(平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)

所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -	⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)			※参考: 日本側研究交流経費			12,600
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート (外貨1 単位に 相当する円貨額)	
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1	Centre National de la Recherche Scientifique (CNRS)	Molecular and cellular mechanisms of resistance to infections in flies and vector mosquitoes.		EUR	126	
(1)日本側研究者の相手国内滞在費							
(2)相手国側研究者の国際航空運賃							
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費							
(4)相手国側研究者の相手国内旅費							
(5)相手国側研究者の研究経費							
(6)相手国開催のセミナー開催経費							
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)		合計		0			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	イギリス
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：グラスゴー大学 英文：University of Glasgow	
③コーディネーター所属 部署局名・職名・氏名 (英文)	Center for Virus Research, Senior Research Fellow, Robert Gifford
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文：英国医学研究会議 英文：Medical Research Council	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	0	2	0	0	0	2	
協力機関・協力研究者	2	0	1	0	0	3	
合計	2	2	1	0	0	5	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)

所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。)(平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)

所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した：○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし：× 当該年度実施なし：-	⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考： 日本側研究交流経費 12,600			
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1	MRC	CVR core funding, viral genomics and viral informatics		GBP	146
(1)日本側研究者の相手国内滞在費						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃						
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費						
(5)相手国側研究者の研究経費						
(6)相手国開催のセミナー開催経費						
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)		合計		0		

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。
 ※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。